

# 柔道死亡事故再発防止に向けての取り組み

杉本 雅吏 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 村田 正夫

キーワード ; 安全指導, 指導環境, 練習環境

## 1. 緒言

近年, 柔道界では様々な問題がメディアを通して世間に報道されている. その一方で, 2012年から中学校の武道必修化が始まると, 日本の約 6 割の学校が柔道を取り入れたという朗報も聞こえている. 今後の行動が注目されているのが今の日本柔道界の現状である.

その中で私は柔道界の諸問題の 1 つに挙げられる柔道死亡事故に着目した. それは近年柔道で命を落としたという報道が大きく取り上げられているからである. 本研究では現在の中学校柔道部活動の実態を知り, 指導者・生徒の意識・各学校の指導環境や練習設備について調査し, 今後の柔道指導の在り方について考察し, 柔道死亡事故再発防止案を提言することを目的とする.

## 2. 研究方法

本研究は, 滋賀県中学校体育連盟柔道専門部に所属している中学校 12 校, 京都府中学校体育連盟柔道専門部に所属している中学校 1 校の指導者 8 名, 生徒 97 名を対象にアンケート調査を実施した. 柔道死亡事故の要因を (1) 生徒自身に内在する要因 (2) 柔道で起こる怪我の要因 (3) 練習環境に内在する要因 (4) 練習設備に内在する要因の 4 つの観点から調査し, 今後の指導の在り方を考察することにした.

## 3. 結果と考察

### 1) 事故・怪我への対応

アンケートの結果から事故や怪我の発生を未然に防ぐことの取り組みや怪我が発生した時の対応が今後の課題となってくる. 例えば投げ込み用マットの使用, 温度・湿度調節をする, 休憩時間を十分に摂る, 水分・塩分補給の時間を確保するなどの対策を行い, 事故発生のリスクを減らすことが必要である. また, 怪我が発生した時にテーピングやアイシングなどの応急処置法を学んでおくことも必要になる.

### 2) 長期練習計画の作成

短期的な練習計画を組み立てている傾向が見られた. 生徒の安全や強化・人間形成を図るのならば, 基礎練習 (受け身・打ち込み) に時間を掛け, 長期的に練習内容を作成する必要がある.

### 3) 練習環境の充実

生徒の安全を確保するために, 指導者は指導者研修会や講習会に参加する等, 指導するにあたって準備をしなければならない.

### 4. まとめ

最も改善すべきことは安全指導体制の確立がなされていないことが挙げられる. 例えば, 指導者ライセンスの取得, 実戦練習への移行が早くなっていることや, 怪我への対応などが見られた. これらは柔道指導を行うためには必要なものである.

また, 自分の身を自分で守る術を自らが学び, 実践することを指導者が発信することで, 生徒がその情報を理解し, 正しく読み取り, 伝達していくことが事故を未然に防ぐ 1 番の近道になるだろう.

## 5. 引用・参考文献

- 1) 全日本柔道連盟「柔道の安全指導」2011年6月 [2011年第3版]
- 2) 中根 雅貴 「柔道における指導方法と指導環境についての一考察—脳震盪による柔道の死亡事故を受けて—」2011年度卒業研究
- 3) 内田 良 「柔道事故」2013年6月